

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		そよ風通信に掲載したり、運営推進会議で説明紹介し理解してもらえよう取り組んでいく予定
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらうことはないため、行事に参加していただけるよう声がけていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	今のところ、取り組んでいない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価の意義を伝え、理解と情報の共有につなげている、評価を活かして改善に取り組んでいる		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議では、利用者やサービスの実際については、随時報告、紹介をしている、(例: 緊急時事例報告)また、参加者からの意見を参考にしていく		災害時の協力体制について相談し、意見をいただいているが、動きに至らず今後具体的に進めていきたい
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	代行申請やお知らせを届けたり、インフルエンザ予防接種に関する連絡など随時相談をしながらサービスの質の向上につなげている		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	権利擁護に関する制度の理解として、マニュアルに含め確認できるようにしているが、特に必要とする事例が今のところはない		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	日常的なさりげない対応が抑制につながることを考える機会を設けている。虐待防止セミナーでの資料、学びをマニュアルに起こし、事業所での勉強会に活用している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に至る前、相談時より家族の不安や疑問には、随時説明し理解、納得をいただいている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情は直接職員に伝えてくださる場合と家族から職員へ話があることもある、不満や不安をケアの検討につなげ、ストレス解消に反映できるよう心がけている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用状況に、往診記録や行事参加を含め、預かり金については出納長に領収書を添付し送付している。職員の異動については、そよ風便りでお知らせしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接、ユニットの職員、管理者に意見、不満、苦情の相談もあり、極力改善できるよう対応している、家族会を通し家族同士でも意見交換の場を設けている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人差はあるものの、利用者同様職員の不安が不平不満につながらないよう随時向き合い話す時間を設けている、可能な限り提案を実践につなげ職員の思いを大切にしたいと考えている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個別ケアに向けての勤務変更は、基本的には困難な場合が多い、利用者、家族の要望に対応するためだけではないが、必要に応じ、また可能な限り勤務の調整は日常的に行っている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設施設や法人内での異動もあり、利用者や家族に迷惑をかけることがあると自覚している、その中でも異動や離職は最小限に抑える配慮はしている、利用者へのダメージについては、異動、入職した職員に対して個々が把握しやすいように情報の提供、共有ができるよう努力している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日常的に人材育成につなげていけるよう個々の役割、ユニットリーダー、当日のリーダーが利用者の状態から環境整備、外部との交流を踏まえコミュニケーションを図りながら一日をまわしていくことで働きながら学ぶ機会へつなげている。内外の研修の機会も確保しているが不足している現状である</p>	<p>併施設設合同で新入職員研修を実施している、時期がずれている中途採用については、セクションで独自に勉強会を必要としている、ホーム内でも随時端的な勉強会は実施しているが、予定を組んでの実施ができていないことが現状、5月にはリーダーシップセミナーと認知症の理解について研修を予定している</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域内他のグループホームとの交流はないが、居宅介護支援事業所や近隣病院ソーシャルワーカーとは連絡を取り合うなど交流している、近隣NPO法人の勉強会に参加したり、随時訪問や相談も受け相互作用が働くよう努力している</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスについては、ミーティング、申し送り時に随時納得して仕事ができるように、職場内で愚痴を言いながら仕事をするのは環境悪化につながるため個々の不満や疑問、壁に当たった時は随時相談をしてもらうよう呼びかけている、管理者の不安や疑問は随時運営者に相談できる体制がある</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の気づき、提案を基に業務のモニタリングにつなげている、自分の意見が言える職場環境作りを心がけている</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時は、主に家族からの意向は聴いていたが、利用者本人から困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会は改めて作っていなかった、日々の会話の中から聴取している程度であったと思う、また往診時にDrから個々に困っていることは？と聞き取りをしている</p>	<p>入居時はもとより、定期的にモニタリングとして実施していく必要性を感じている、今後は確実に実施しケアプランに反映できるようにしていきたい</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から家族の思い、希望については傾聴し、利用者の対応に反映できるように努めている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームに相談がある場合でも、状態の把握や家族の介護力についても聞きながら居宅のケアマネ同様の相談対応を基本としている、他のサービス利用も紹介している</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学、体験入居も必要に応じ実施している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に過ごし、寄り添い対応している、時に利用者から学ぶこと励まされることもあるが、支えあう関係作りには不足があると思われる</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には、状態・状況の報告と共に随時相談と協力をお願いしている、本人と一緒に支えていく関係が概ねできていると思う</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族と同居または別居において、いずれの家庭も介護が困難であった状況と認知症問題から互いの精神面におけるストレスが否めない状況であったと思う、愛情が深いほど家族は苦しんでいると感じる、入居に際し少し距離を置くことでより良い関係を支援できるよう努力している</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族以外の親しい友人の面会がある利用者もいる、馴染みの場所との関係については、実際に同行する事は困難だとしても、ホームが過去の職場であったり馴染みの同僚であったり時には必要として演じることもある</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、関わり合い、支え合えるよう支援はしているが、時には言い争いやトラブルもあるのが現状、随時座席の工夫や変更で対応している、地域社会、家庭においてもトラブルは珍しいことではないと捉え、見守りと必要な支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も家族の状況により、介護保険上の相談など受けており、必要な支援を必要な期間継続している		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を言葉にしてくださる方には、可能限り実現できるよう検討支援し、特に言葉での意思表示がない方には、本人の思いを汲み取る努力をしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメント、生活暦基本情報の記入を基に、把握できるよう努めている、また家族の訪問時、カンファレンス的に相談しながら新たに確認できることもある		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、体力、身体状態の確認をしながら総合的に生活を支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護保険更新時には、サービス担当者会議（カンファレンス）、また随時ミニカンファを実施して介護計画の見直しにつなげている、家族には随時カンファを行い現状を伝え、意見を聞きながら介護計画に反映できるよう努力している		家族を含めての、サービス担当者会議が不足している、事前に計画、連絡をし家族の参加をいただけるよう日程の調整ができるよう努力したい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に伴い随時、相談、対応できているが、介護計画の見直し変更が追いついていないこともある		アセスメント、生活面チェック、長谷川式を定期的に（半年に1回）、また随時実施が継続できるよう努力している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、医療ノート、カンファレンスノート、申し送りノートを併用し情報の共有、提案、工夫を実践につなげ随時介護計画の見直しに活かしている		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所、ショートステイの指定は受けしていないが、新規利用については、本人の状況、家族の意向によって体験入居や体験通所、見学を実施し、不安の解消緩和につなげている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、民生委員との関わりやボランティアによる趣味や教養、楽しみの支援。また公民館、図書館利用、近隣交番、駅など必要に応じ協力、協働している		家族会も含め、更に地域の中で生活していることを実感ができるよう、サービス内容を工夫していきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外サービスとしては、併設施設デイケアの浴室をたまに利用し温泉気分を感じていただけるよう、訪問理美容も併設施設の理美容室を利用している		訪問理美容については、グループホームに直接来てくれる業者と調整検討中である
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの相談可能な体制、関係作りはできているが、実際に成年後見制度の必要性がある利用者がいないため権利擁護においては、具体的な事例はない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を踏まえ、入居時または随時相談してかかりつけ医は決めている(継続または変更)往診医療機関は1ヶ所決めており概ね対応してもらっている状況、専門医への受診は、状況によりDr、家族と相談しながら受診支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門とは異なるが、脳神経外科のDrに往診を依頼している、検査結果を基に家族、職員へも説明があり、薬の見直しにつなげている、医師とは随時相談できる体制ができています		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算の指定はとっていない、看護資格のある職員はいないため日常的に関わり、相談できる体制はないが、往診対応のDr相談と状況に応じ、併設施設の看護師に協力してもらっている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は家族と連絡を取りながら、また病院の相談員と相談しながら早期退院できるよう連携支援している		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	Drの指示、協力を仰ぎながら家族への状況説明と対応方針を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルについては、Drとも相談検討中の現状、実際にはターミナル直前までの対応はしている、ホームとしてできないこともDrと相談途中		看取りまで対応する場合、看護師との連携がないため難しい面がある、急きょホームで亡くなった場合、死後の処置対応など現在模索中である
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホーム利用中入院、退院後、併設老健入居のケースも複数ある、情報の伝達、共有はもとより訪問も可能な環境である、他の事業所についても必要に応じ情報交換をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけは常にさりげなくを基本とし、声のトーン言葉使用に関しても日々注意できるよう、申し送り時、ミーティングで再確認、個人情報の扱いについても徹底できるよう努めている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>行事や外出、レクリエーション、趣味活動においても、全員一緒にという価値観を持たず、個々の意思、意向を大切にしている、利用者本人が納得できる対応を支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な流れはあるが、利用者個々の体調や気分、希望により可能な方法を考えて柔軟に対応できるよう努めている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>近隣の美容院、併設施設の理美容室を利用など個々の希望に副った支援をしている、家族と外出を楽しみながら美容室に出かけるケースもある、服装に関しては本人の希望を尊重しながらおしゃれ支援ができるよう必要な声かけ、準備、乱れを整えるなどをさりげなく行っている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常的な献立、食材購入は、併設施設の管理栄養士との連携で実施している、簡単な調理の下ごしらえを利用者と一緒に行っている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつは利用者の希望を勘案し購入、飲み物は好きな物が選べるよう支援している、また嗜好調査に基づき定期的に外食を実施している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の時間や習慣を把握し、紙パンツ、パットも必要に応じ使用しながらトイレでの排泄を基本としている、さりげない声かけ対応に配慮している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>個々の希望とタイミングに合わせて入浴を実施している、利用者のペースに合わせ気分的にもゆったり楽しめるよう支援している、時には温泉気分で併設デイケアの浴室を利用している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>体調に合わせて日中の活動を促し、適度な疲労感から安眠につながるよう支援すると共に、心配不安から入眠できない時には、温かい飲み物を飲みながら穏やかな時間を過ごせるよう心のケアにも工夫している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の得意なことやできそうな仕事をお願いし、張り合いや喜び、充実した日々が過ごせるよう支援している</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者、家族の希望、個々の能力に合わせた支援をしている、金銭管理が困難な利用者は預かり金として対応している</p>		<p>自分のお金を持って買い物を楽しんでいるのは、一部の利用者である、自己管理が困難な利用者についても買い物の楽しさを味わえるよう、可能な方法を模索検討中</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や花を見ながらドライブ、外出は随時実施している、屋上や玄関先で季節により外気浴、日向ぼっこ、夕涼みなど季節を感じてもらえるよう支援している、個々の希望に合わせて喫茶店や外食にでかけることもある</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>日帰り旅行気分、少し離れた町の温浴施設へ外出、家族会に呼びかけ協力いただきながら観劇と食事を実施した</p>		<p>利用者に改めて行ってみたいところを確認はしていないが、会話の中から汲み取り今後の対応を検討していきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、併設施設の公衆電話を利用できるよう支援している、家族からの電話は事務所で取り次いでいる、手紙のやり取りも必要に応じて支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室やリビングで気兼ねなく自然体で過ごせるよう、また家族の都合の良い時間に訪問してもらえるよう支援している、また職員は笑顔で挨拶、お客様を迎えられるよう意識統一している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時のミニ勉強会にて、資料配布確認し理解対応につなげる努力をしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関内扉のみボタン操作としている、併設施設への業者車両、来客も多く、常に車の出入りがある、また敷地は広大であり門扉もなく開放状態のため危険を伴うと思われる、外に出たい時には職員と一緒に出るようにしている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録場所は基本的に事務所とし、リビングの様子が把握できる位置で記入するようにしている、リビング内で記入するバイタル表などはテーブルの上に放置しないよう配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	外用薬や義歯洗浄剤など個々の能力に応じ管理している、はさみやひげそり用電気カミソリ、はさみ、爪切りなど自己管理、使用してる利用者もいる		ポットを居室で使用している利用者はいないが、沸騰ポットでは危険を伴うため、保温ポットにお茶を入れておき、自由に飲めるコーナーを検討している
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはつとを記入し、再発防止策を検討、情報を共有し事故防止につなげる努力をしている、また申し送り時やミニカンファ時に危険の予測をし、対応の検討につなげている、防災訓練は実施している		現在は併設施設と合同の防災訓練を実施、職員全員が訓練に参加することは不可能なため、グループホーム独自で訓練を実施していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアル、感染対策(緊急処理セット)の勉強会を実施しているが、応急手当や初期対応訓練は改めて行っていない、随時の対応で学び合える環境はある		夜間の緊急対応については、マニュアルはあるが職員は常に不安を感じているようである、ロールプレイやシミュレーションを導入し勉強会を実施していきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と合同で防災訓練は実施している、避難訓練、消火器の使い方の訓練は定期的に行っている		地域の協力体制については、運営推進会議にて呼びかけ、検討中である、この地域では、区長さんと相談するよう町のアドバイスあり、具体的にはこれからの予定
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	異食行為や転倒など認知症状の変化、状態変化については、随時報告、危険の予測を踏まえ対応方法の相談、了解が得られるようにしている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック、状態変化については気づきを報告、相談につなげ記録、医療ノート、申し送り等で情報の共有をし、必要に応じて医療との連携を図っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr、薬剤師との連携を図り、薬の情報(目的、副作用、用法など)の説明を受け、職員用にも情報(くすり情報)を作成、情報共有、理解につなげ服薬支援、症状の変化、確認は概ね徹底できている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分、食事量の確保を重視し排便状況を把握、Drに相談し必要に応じ服薬を検討、水分摂取が困難な利用者には、ゼリーや果物を代替とし工夫しながら対応している(家族にも相談報告しながら)また、適度な運動ができるよう支援している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄の声かけ、必要に応じた支援をしている歯の状態、口腔内の状態、食事摂取状況の観察をしながら、情報の共有、状況により歯科受診の支援につなげている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立、食材搬入は併設施設の管理栄養士の協力の下行っている、個々の食事量、水分量は把握し、体重チェックと合わせて健康管理の目安としている、また栄養補給、水分確保ができるよう常に話し合い工夫している、健康チェック表に記録し医療との連携にもつなげている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに基づき、吐物、排泄物の緊急処理セットを準備している、インフルエンザについては、利用者、職員とも早めに予防接種を実施している、家族にも、必要性の説明、同意をもらい、行政(保健所)とも連携を取り、費用の軽減にもつなげている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員は、定期的に細菌検査を実施している、台所、調理器具についても、アルコール除菌、ふきんやまな板は漂白し清潔、衛生を保てるよう努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路に面した入り口には、大きな案内板がついている、玄関にはプランターに植木、花を植えている、玄関前にはベンチを置き、荷物を置いたり、座って休憩できるようにしている、利用者は、気分転換にお茶を飲んだり、歌を歌ったりと利用している、必要に応じて椅子を追加している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り棚には、利用者の作品や写真、季節の野草を生けたり雛人形など季節感を取り入れ、また屋上にはルーフガーデンがあり洗濯物、布団干しなど生活しながら気分転換が図れる空間作りをしている、屋内においても居心地の良い環境づくりに努めている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には独りになれる場所は、確保できていないが、気の合った利用者同士で過ごせるようリビングの座席は工夫している、1階エレベーターホールには椅子を設置しており、思い思いに過ごせるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室によりしつらえの違いはあるが、希望に応じて使い慣れたものや好みのもを持ち込んでもらっている、本人にとって居心地のよい環境づくりを家族と相談しながら支援している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えに気をつけ、空調の使用は利用者の状況を確認しながら温度調節をこまめに行い、臭いについては必要に応じて換気扇や消臭剤を使用している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内は、バリアフリー、手すりの設置はあるが、居室内には手すりはないため、伝い歩きや必要に応じて杖を使用している、また車椅子用トイレが設置されている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室は同じ扉が並んでいるため、間違えてしまう利用者には扉に大きくサインを付けている(居室入り口には個々に表札もついている)またトイレにもサインを付けて混乱、失敗を防げるようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にはベンチがあり、季節により外気浴、夕涼み、お茶を飲みながら談笑と気分転換に活用している、畑もあり季節により活用、屋上は物干し、花壇、ベンチがあり、花を見たり、夏は花火を見たりしている		気候のよい時は、屋上の活用を充実していきたいと検討中、ベンチやテーブルも傷みかけているため購入する予定、お茶を飲んだり、体操(歩行訓練)など生活リハビリ、活動の場に活用したい

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	家族	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 医療との連携、看護師がいない分介護職員が情報共有、確認しながら知識を高め、共に成長できる環境がある。利用者の身体状態の変化や気づきの報告、相談、対応につなげている。*利用者、家族の不満や意見を聞きながら個々の思いを受け止め、解決方法への指針にしている。不安や不満を言葉にしやすい環境づくり(信頼関係作り)に努力している。